王厳崧（スクールリーダーシップ開発専攻）

外国語の役割

１．教育を考える一言

「外国語を知らないものは、自分の国語についても何も知らない。」

Wer fremde Sprache nicht kennt, weiß nichts von seiner eigenen.

（ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ）

２．背景

ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ (Johann Wolfgang von Goethe, 1749 -1832)。ドイツの詩人、劇作家、小説家、自然科学者、政治家、法律家、ドイツを代表する文豪であり、小説『若きウェルテルの悩み』、『ヴィルヘルム・マイスターの修行時代』、叙事詩『ヘルマンとドロテーア』、詩劇『ファウスト』など広い分野で重要な作品を残しました。

ゲーテはイタリアへの旅行などを経て古代の調和的な美に目覚めていき、『エグモント』、『ヘルマンとドロテーア』、『ヴィルヘルム・マイスターの修行時代』などを執筆、シラーと伴にドイツ文学における古典主義時代を築いていました。ゲーテは特に語学に長けており、少年時代すでに英語、フランス語、イタリア語、ラテン語、ギリシア語、ヘブライ語を習得していました。ゲーテがドイツを代表する文豪であるのは、多くの外国語ができることと関係があるではないでしょうか。

３．考察

私は小さい頃、英語教師である母親の影響で、ずっと「外交官になりたい」という夢を持っていました。幼稚園の時、母親と英語で挨拶や簡単な会話をすることを、非常に格好いいと思っていました。私は無意識に外国語に興味を持ちました。しかし、外国語教育がどんな役に立つのか、実は、分かりませんでした。

数年後、ずっと外国語に興味をもっていた私は、大学入学試験で、英語科と韓国語科を志望していましたが、結局は日本語科に入りました。これは、運命だと感じています。四年間、日本語を学んだ後、2010 年 9 月、大学の交換留学生として日本に来ました。

あっという間に、日本に来てからもう二年目です。日本で授業を受けて、今までとは違った考え方、物の見方ができるようになりました。この時、ゲーテの名言を思い出しました。「外国語を知らないものは、自分の国語についても何も知らない」。つまり、同じ物事に対する考え方は、見る場所によって違う。やはり、外から見ることと中から見るのは違います。中国の民主主義革命時期のことを思い出しました。魯迅など有名な革命家たちは、留学経験がある方は少なくないでしょう。特に、日本の留学生たちは、日本の先端的な教育を受け、中国に帰って、様々な革命活動を行いました。私も日本の教育を受けて成長し、将来中国に戻り、母国の教育に貢献すると決意しました。また、日本人との間の交流のためにも貢献したいです。自分の目で見た日本を、周りの人に紹介していきたいと思います。

引用･参考文献

高橋健二編訳『ゲーテ格言集』新潮社、1952 年、p.116